

当り四十八円二十銭となり、販売価格四十五円を約三円上りまるとなつた。しかし、公益事業である限り損を覚悟で必死の企業努力が続けられ現在を迎えているが、経営努力にも限度があり、結果的に昭和五十二年決算では残念ながら二千万円を超す赤字になることが明らかになった。



このまゝでは、水道事業の倒産は目前に迫つて来たと言わざるを得ない。

みなさんもご存知のように、ガスや水道事業については、国や県から一銭の補助もない「独立採算制」の会計である。

従つて、水道事業の財政は、みなさんから徴収する水道料金と借金

(企業債)によつてまかなわれているのである。

人口も当初の一万四千人から現在は二万人にならうとしており、それに比例して水の需要も、現在の配水能力一万一千トンを上まわる最高日量一萬一千三百トンを記録している。また、この需要量は都市化現象が進むにつれて大巾に伸びて行くことも明らかであり、やがて飽和状態に達するものと思われる。清浄、豊富、低廉の三大原則を維持し、安定供給を確保するため、今後施設の拡充強化がますます要求され、大きな課題となっている。

町では、これに対処し、現在の配水能力二万一千トンから二倍の二万二千トンに引上げるよう計画を進めつつある。

このようなことから、水道料金の値上げは、さけられない問題となつてきた。町では、この重要問題を議会に提案し、現在真剣な審議が続けられている。

みなさんには、この様な現状をご賢察のうえ、何分のご理解とご協力をお願い申し上げる次第であります。

### 財政のしくみ

わたしたちが毎日にはげなく使っている水道——健康で文化的な生活をいとむためには、ひとときも欠かすことはできません。

そのためには、施設の拡充や整備などを積極的に行ない、みなさんがいつでも満足するだけの水をつくり、お届けしなければなりません。

こうした施設を設備するには、当然、多額の資金が必要です。町税などの税金とは関係なく、料金収入だけで運営する水道事業にとっては、とてもまかなうことはできません。必要な資金は国からの借入れ金(企業債)でやりくりするわけです。

そして、施設ができ、水を送つて得た料金収入の中から毎年少しづつ借金を返し、事業を営んでいます。



こんな方法でやりくり